

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 霧丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

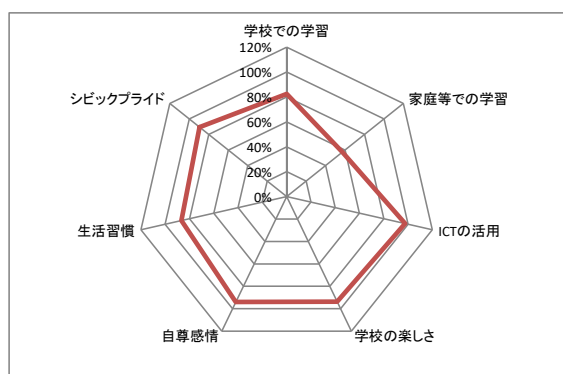
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「情報の扱い方に関する事項」・「書くこと」・「読むこと」に関する問題の正答率が高いのに対し、「言葉の特徴や使い方に関する事項」・「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率は平均を下回っている。問題形式では、「記述式」の問題の正答率が高いのに対し、「短答式」の問題の正答率が低く、観点別では、「知識・技能」の項目を苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」・「図形」に関する問題の正答率が高いのに対し、「変化の関係」に関する問題の正答率は平均を下回っている。問題形式では、「選択式」の問題の正答率が高いのに対し、「記述式」の問題の正答率が低く、観点別では、「思考・判断・表現」の項目を苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<p>・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して、95%の児童が肯定的に回答している。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いに対しても、90%近くの児童が肯定的に回答している。</p> <p>・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。</p> <p>・家庭等での学習をしていると回答した割合が低かった。今後は、自分で計画を立てて学習することや、家庭学習時間の確保ができるように啓発していく。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ きりぼうタイム(学力向上タイム)を週に2回位置付け、基礎学力の向上に継続的に努めた。
- ・ ICTを積極的に活用し、個別最適な学びに繋がられるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 霧丘小学校「みんなのやくそく」を全家庭へ配布し、全職員共通理解のもと指導を行う。
- ・ 学校だより、学年・学級通信、学級懇談会等を通じて、家庭学習(学年×10分)や生活習慣の大切さを継続的に伝えていく。